



マースレニツァ ～許しの日曜日～

T

安部 花子

2月22日、田町リーブラにてマースレニツァに参加しました安部と申します。昨年はロシア正教の大斎の時期と重なってしまい参加できない方もいらしたものの、今年は大斎前に無事開催することができ、昨年と比較しさらに多様な参加者で春の訪れを祝うことができました。会の副題は、その名も「許しの日曜日」。伝統的なキリスト教においては、大斎期間の直前の日曜日に互いの罪や過ちを許しあう日があり、春のお祭り「マースレニツァ」の期間にバターをたっぷり使ったブリヌイというクレープをみんなで食べて大斎期間中に口にできない乳製品を使い切り、厳しい大斎を迎えるための準備をするそうです。素晴らしい芸術に触れ、みんなでブリヌイを食べながら歓談を楽しむことができ、春の訪れをお祝いするのにふさわしい一日となりました。

プログラムの始まりは、なんとミハイル・カンディンスキー先生のピアノリサイタルから始まりました。観客席のすぐ目の前に配置されたグランドピアノで、チャイコフスキー『四季』からマースレニツァや春をテーマにした曲を3曲、贅沢にも生演奏してくださいました。私自身、人生初のピアノリサイタル鑑賞だったのですが、世界最高峰レベルのピアノ演奏が自分の2～3m手前で繰り広げられるという体験に大変衝撃を受け、演奏中は瞬きする間もなく先生の奏でる音色や演奏する手の動きに釘付けになってしまいました。



この後も素晴らしい歌唱や舞踊が途切れることなく続きます。昨年に引き続き、スラブ民族舞踊団「スラヴァーニェ」の皆さんが中心となり、たくさんの民族舞踊を披露し

てくださいました。太ももまで伸ばした長い髪を編み込み、輝く金糸があしらわれた丈の長い衣装を身にまとった女性ダンサーによるアゼルバイジャン舞踊は、白鳥のような優美な動きが特徴的。情熱的な男女のフォークダンススタイルのジョージア民族舞踊や機敏なコサックダンスは、オリエンタルな雰囲気満点。ナタリアさんが生歌唱するロシア民謡に合わせたダンスやウクライナの踊りは明るい曲調に合わせてテンポよく舞い踊るダンサーの皆さんの姿がとても印象的で、白地に赤や青といった色合いのサラファン（女性用ジャンパースカート）やココシニク（女性用髪飾り）、ルパシカ（男性用シャツ）といった衣装も相まって、まるでロシアのおとぎ話の世界に入り込んだようでした。今年はチャイカバレエスタジオから次世代のティーンエイジャーダンサーも参加し、国だけでなく年齢層も多様性に富んだアーティスト達による素晴らしい舞台となりました。イベント中盤ではロシア楽器の紹介や、出演者と観客が一体となって踊れるような体験タイム（写真）もあり、開幕から閉幕まで飽きることなく大変盛り上がった一日でした。

ホールでのコンサート終了後は、お約束のブリヌイ懇談会です！千葉副会長や岩橋さんと一緒に調理室で準備したブリヌイやビーフストロガノフ、雛祭りのお菓子を食べてみんなで歓談します。昨年からファンになった憧れのダンサーさんと会話するチャンスもあり、素晴らしい演技を見せてくださったことへの感謝を直接お伝えできて大満足！

出演してくださった皆様をはじめ、音響操作や舞台設営に尽力してくださったボランティアの皆様、素晴らしいイベントを成功させてくださりまことにありがとうございました。